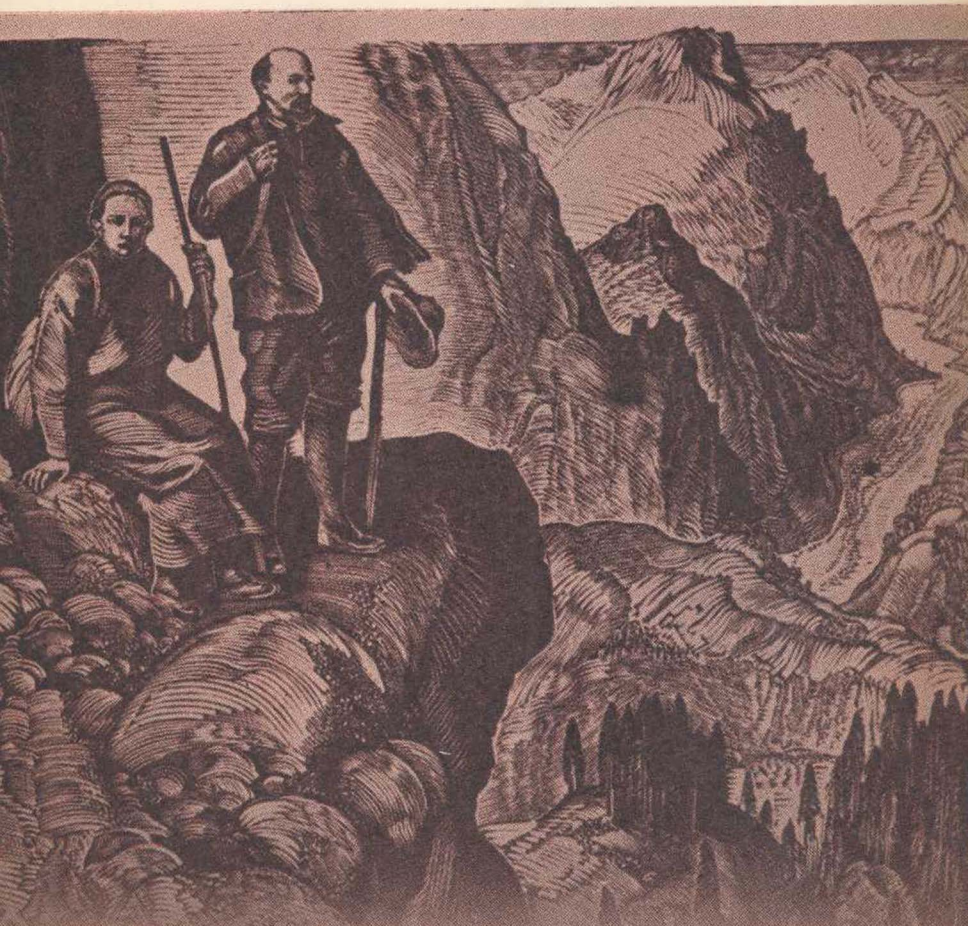
レーニン選集

4

マルクス＝レーニン主義研究所訳



レーニン選集　第4冊　¥ 250.

1957年 8 月 15 日　発行

訳　者　マルクス・レーニン主義研究所
レーニン全集刊行委員会

検印
廃止

発行者　小　林　直　衛

印刷者　山　元　正　宜

発行所　大　月　書　店
東京都文京区本郷1の15
電　話 (92) 3091・7887
振替　東京 16387

三晃印刷・田中製本

はしがき

一　この選集は、ソ同盟マルクス＝レーニン主義研究所編『レーニン二巻選集』をもとにし、同研究所と日本のマルクス＝レーニン主義研究所との意見でいくつかの論文を加除して編集したものである。

一　翻訳には現行版としてもっとも権威のある『レーニン全集』第四版を底本につかった。全集のどこに入っているかは各論文末にしめしてある。

一　原注は（1）（2）……でしめして各段落のつぎに、訳注は＊印をつけて人名注とともに巻末にかかげておいた。ただし人名注は、本文のなかではいちいち印をつけずに、一括してアイウエオ順に配列してある。なお、本文中〔　〕内の六号または六ポイント組の挿入は訳者による補注である。

一　訳文のなかで傍点がついている個所は原文ではイタリック体になっている。ゴシック体のところは原文では同様ゴシック体である。

一　訳出には全集刊行委員会の翻訳者団と校閲者団が責任をもってあたり、術語・用語・文体・字づかいの統一をおこなってある。

目次

民主主義革命における社会民主党の二つの戦術

まえがき……一五
一　緊要な政治問題……八
二　臨時革命政府についてのロシア社会民主労働党第三回大会の決議はなにをわれわれにしめしているか？……一一
三　「ツァーリズムにたいする決定的勝利」とはなにか？……一八
四　君主制の廃止と共和制……二三
五　どうやって「革命を前進させる」べきか？……二八
六　プロレタリアートが不徹底なブルジョアジーと闘争するさいに手をしばられる危険はどの方面からせまってくるか？……三三
七　「政府から保守派を遠ざける」戦術……四五
八　オスヴォボジデーニエ主義と新イスクラ主義……五〇
九　革命時に最左翼の反政府党であるということはなにを意味するか？……五八
一〇　「革命的コンミューン」およびプロレタリアートと農民の革命的民主主義的独裁……六一
一一　ロシア社会民主労働党第三回大会と「協議会」との若干の決議の簡単な比較……七一

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

一二　ブルジョアジーが民主主義革命から尻ごみすれば民主主義革命の展開力はよわまるか？……七六
一三　結論。われわれは勝利してもよいか？……八五
あとがき……九五
Ⅰ　ブルジョア自由主義的現実主義者はなぜ社会民主主義的「現実主義者」を賞讃するのか？……九五
Ⅱ　同志マルトィノフがこの問題を新しく「深めた」こと……一〇二
Ⅲ　独裁の俗流的・ブルジョア的な説明とマルクスの独裁観……一一〇
農民運動にたいする社会民主党の態度……一二〇
党の再組織について……一三〇
社会主義と宗教……一四〇
ボイコットについて……一四五
モスクワ蜂起の教訓……一五三
革命の教訓……一六一
マルクス主義の歴史的発展の若干の特質について……一六七
ストルィピンと革命……一七二
事項注……一八一
人名注……一九一
解説……一九七

民主主義革命における社会民主党の二つの戦術

まえがき

革命的時機には、もろもろの事件――それは革命的諸政党の戦術的スローガンを評価するための新しい材料を、驚くほどたくさん提供してくれる――におくれないようについていくのは、非常にむずかしい。この小冊子は、オデッサ事件[1]以前に書いたものである。われわれがすでに『プロレタリー』*（第九号所載『革命はおしえる』[全集、第五巻、一二七ページ]で指摘しておいたように、オデッサ事件は、過程としての蜂起**という理論をつくりだして臨時革命政府を宣伝するのを否認していた社会民主主義者までも、事実上彼らの反対者の立場にうつらせたか、あるいは、うつらせはじめた。疑いもなく、革命は、平和な政治的発展の時代にはありそうもないと思われるほどすみやかにまた徹底的に、人々を教育する。しかも革命は――これがとくにたいせつなことだが――指導者を教育するだけでなく、大衆をも教育する。

（1）戦艦「ポチョームキン公」号の蜂起のこと。〔一九〇七年版への原注〕

革命がロシアの労働者大衆に社会民主主義をおしえるだろうということは、すこしも疑う余地がない。革命は、いろいろの社会階級の真の本性をしめし、わが国の民主主義派のブルジョア性をしめし、また農民――ブルジョア民主主義的な意味で革命的だが、しかし「社会化」の思想をいだいているわけではなく、農民ブルジョアジーと農村プロレタリアートとの新しい階級闘争をはらんでいる農民――のほんとうの志向をしめすことによって、社会民主党の綱領と戦術を事実のうえで確証してくれるであろう。たとえば「社会革命党」の綱領草案のなかでは、ロシアにおける資本主義の発展の問題についても、わが「社会」〔「教養ある社会」、すなわちブルジョアジーの意〕の民主主義の問題についても、また農民蜂起の完全な勝利の意義の問題についても、昔のナロードニキ派の古い幻想がはっきりとうかがわれるが、これらの古い幻想は、すべて革命によって容赦なくすっかり吹きちらされてしまうであろう。革命は、いろいろの階級にはじめての真の政治的洗礼をほどこすであろう。これらの階級は、そのイデオローグ

〔思想的代表者〕の綱領や戦術的スローガンに自分の本性をしめすだけでなく、大衆の公然たる政治行動においてもその本性をしめして、明確な政治的相貌をそなえて、革命から出てくるであろう。

疑いもなく、革命はわれわれをおしえ、人民大衆をおしえるであろう。しかし、闘争している政党にとっていま問題となっていることは、われわれが革命になにかをおしえることができるかどうかであり、またわれわれがわれわれの社会民主主義学説の正しさや、またただ一つ最後まで革命的な階級であるプロレタリアートとのわれわれの結びつきを利用して、革命にわれわれの刻印を押し、口さきではなく、実際に革命を真の決定的勝利に導き、民主主義的ブルジョアジーの動揺性と中途半端性と裏切りとを麻痺させることができるかどうか、ということである。

われわれが、いっさいの努力をむけなければならないのはこの目標である。ところで、われわれがこの目標を達成しうるかどうかは、一方では、われわれの政治情勢評価が正しいかどうか、われわれの戦術的スローガンがまちがっていないかどうかにかかっているし、他方では、これらのスローガンが労働者大衆の現実の闘争力によって支持されるかどうかにかかっている。わが党のすべての組織やグループの通常の、正規の、日常の全活動、すなわち宣伝、煽動、組織の活動は、大衆との結びつきを強化し拡大することにむけられている。この活動はいつでも必要であるが、革命的時機にはほかのときとちがって、これだけで十分とみなすことはできない。このような時機には、労働者階級は本能的に公然たる革命的行動にむかって突きすすむものであるから、われわれは、この革命的行動の任務をただしくさだめ、ついで、この任務についての知識と理解をできるだけひろくひろめることができなければならない。われわれの大衆との結びつきについて一般におこなわれている悲観論が、革命におけるプロレタリアートの役割についてのブルジョア的見解をかくしているばあいが、いまはとくに多いことを、わすれてはならない。われわれが労働者階級の教育と組織のために、さらにさらに多くの活動をしなければならないことは疑いないが、しかし、いまもっぱら問題となっているのは、この教育とこの組織との主要な政治的重心をどこにおくべきか、ということである。労働組合や合法的協会におくのか、それとも武装蜂起や、革命軍と革命政府を創設する仕事におくのか？　このどちらによっても、労働者階級は教育され組織される。もちろん、このどちらも欠くことはできないものである。だが、い

ま、当面の革命では、およそ問題は、労働者階級の教育と組織の重心がどちらにあるのか、前者にかそれとも後者にか、という点に、帰着する。

革命の結末は、労働者階級が、専制にたいする攻撃力は強くても、政治的には無力な、ブルジョアジーの助手の役割をはたすか、それとも人民革命の指導者の役割をはたすか、そのどちらであるかにかかっている。ブルジョアジーの自覚した代表者たちは、このことをりっぱに気づいている。だからこそ『オスヴォボジデーニエ』*は、いま労働組合や合法的協会を前面におしだしている、社会民主党内のアキモフ主義、「経済主義」**を、ほめたたえているのである。だからこそストルーヴェ氏は、新イスクラ派内のアキモフ主義の原則的諸傾向を歓迎しているのである（『オスヴォボジデーニエ』第七二号）。だからこそ彼は、ロシア社会民主労働党第三回大会の諸決定のにくむべき革命的狭量にくってかかっているのである。

社会民主党が正しい戦術的スローガンをもつことは、いま、大衆の指導にとってとくに重要な意義をもっている。革命時に原則の一貫した戦術的スローガンの意義をひくく見ることほど危険なことはない。たとえば、『イスクラ』***は第一〇四号で、社会民主党内の自分の反対者の立場に事実上うつりつつあるが、しかも同時に、運動が一連の失敗や誤りなどを伴いながらもすすんでいく道をさししめす、生活にさきんじたスローガンや戦術的決定の意義を、かろんずる意見を吐いている。これに反し、事件のあとからよちよちついていくにとどまらないで、マルクス主義の一貫した原則の精神にしたがってプロレタリアートを指導しようとのぞむ党にとっては、正しい戦術的決定をつくりあげることは、きわめて重大な意義をもっている。ロシア社会民主労働党第三回大会の諸決議と党の離脱部分[1]の協議会の諸決議は、個々の文筆家たちがたまたま述べた見解ではなく、社会民主主義的プロレタリアートの責任ある代表者たちが採択した戦術上の見解の、もっとも正確で、もっとも考えぬいた、もっとも完全な表現である。わが党は全党員によって採択された正確な綱領をもっている点で、他のすべての党よりもすすんでいる。わが党は、『オスヴォボジデーニエ』の民主主義的ブルジョアジーの日和見主義とは反対に、また革命時になってやっと綱領「草案」を提出したり、眼前におこっている革命がブルジョア革命かどうかという問題の究明にはじめてとりかかる気になる社会革命派の革命的空文句とは反対に、自党の戦術的決議に厳格な態度をとる点でも、他の諸政党に模範をしめすべきである。

（1）ロシア社会民主労働党第三回大会（ロンドン、一九〇五年五月）には、ボリシェヴィキだけが参加した。「協議会」（ジュネーヴ、同じころ）には、メンシェヴィキだけが参加した。メンシェヴィキは、この小冊子では、しばしば「新イスクラ派」と呼ばれている。というのは、彼らは、『イスクラ』の発行をつづけてはいたが、彼らの当時の同志であるトロツキーの口を通じて、旧『イスクラ』と新『イスクラ』のあいだには深淵がある、と宣明したからである。〔一九〇七年版への原注〕

まさにこの理由から、われわれは、ロシア社会民主労働党第三回大会と「協議会」の戦術的諸決議を綿密に研究し、そこにあるマルクス主義の原則からの逸脱を明示し、民主主義革命における社会民主主義的プロレタリアートの具体的任務をはっきり理解することを、革命的社会民主主義派のもっとも緊要な仕事であると考える。本小冊子もこの仕事にささげられている。マルクス主義の原則と革命の教訓という見地からわれわれの戦術を検討することは、訓戒の言葉を述べるだけにとどまらないで、ロシア社会民主労働党全体の将来の完全な統合の基礎としての戦術の統一を現実に準備しようとのぞんでいる人人にとっても必要なことである。

一九〇五年七月

エヌ・レーニン

一　緊要な政治問題

いま際会している革命的時機に日程にのぼっているのは、全人民的憲法制定議会を召集する問題である。この問題をどう解決するかについて、意見がわかれている。三つの政治的流派が見られる。ツァーリ政府は、人民代表を召集する必要があることをみとめてはいるが、しかし、その議会が全人民的なものに、また憲法を制定する議会になるのをけっしてゆるしたくないのである。ブルィギン委員会*の活動についての新聞報道を信用するなら、ツァーリ政府は、煽動の自由をあたえないでおいて、狭い制限選挙制または狭い身分別選挙制によって選挙される諮問議会に、同意しているようである。だが、革命的プロレタリアートは、社会民主党の指導をうけているかぎりでは、権力を憲法制定議会に完全にうつすことを要求し、そのために普通選挙権と煽動の完全な自由をえようと努力しているだけでなく、さらにツァーリ政府を即時打倒し臨時革命政府にかえようと努力している。最後に、いわゆる「立憲民主党」の指導者たちの口をかりて自分たちの希望を表している自由主義的ブルジョアジーは、ツァーリ政府の打倒を要求せず、臨時政府のスロー

ガンをかかげず、したがって選挙が完全に自由で正規なものとなり、代表議会が真に全人民的で真に憲法を制定する議会となりうるような現実の保障をもうけることを主張していない。「オスヴォボジデーニエ派」の流派の唯一の重要な社会的支柱である自由主義的ブルジョアジーは、実際は、ツァーリと革命的人民とのできるだけ平和な取引を、しかも彼らブルジョアジーには最大の権力があたえられ、革命的人民、すなわちプロレタリアートと農民には最小の権力しかあたえられないような取引を、もとめているのである。

これが現在の政治情勢である。これが、現代ロシアの三つの主要な社会的勢力に対応する三つの主要な政治的流派である。「オスヴォボジデーニエ派」が、革命にたいする彼らの中途半端な政策、すなわち、もっとも率直簡明にいえば変節的・裏切的な政策を、どのように見せかけの民主主義的空文句でおおいかくしているかについては、われわれはすでに一度ならず『プロレタリー』（第三・第四・第五号）で述べておいた〔全集、第八巻、四五二―四六〇、四七七―四九〇ページ〕。ここでは、社会民主主義者が現時機の任務を、どのように評価しているかを考えて見よう。この点についての絶好の材料は、つい最近ロシア社会民主労働党第三回大会と党の離脱部分の「協議会」とが採択した二つの決議である。この二つの決議のうち、どちらが当面の政治情勢をよりただしく評価し、革命的プロレタリアートの戦術をよりただしく規定しているか、という問題は、非常な重要性をもっている。だから、宣伝者、煽動者および組織者としての自己の義務を意識的にはたそうとする社会民主主義者ならだれでも、事の本質にかかわりのないことはすっかり度外視して、あらゆる注意をはらってこの問題を究明しなければならない。

政党の戦術というのは、その党の政治的態度、いいかえればその党の政治活動の性格、方向、方法のことである。戦術上の決議は、新しい任務に関連して、あるいは新しい政治情勢に直面して、党の政治的態度を全体として厳密に規定するために、党大会によって採択されるものである。ロシアにはじまった革命は、こうした新しい情勢を生みだした。すなわち、人民の圧倒的多数がツァーリ政府から完全に、断固として、公然と離反したことがそれである。新しい問題は、真に全人民的で、真に憲法を制定する議会を召集する実際的方法は、どのようなものか、という点にある（理論的には、このような議会の問題は、すでにずっとまえに社会民主党が、他のすべての政党にさきんじて正式に党綱領のなかで解決している）。もしも人民が政府からすでに離反しており、新し

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

い秩序をうちたてなければならないということが大衆に意識されているとすれば、政府を転覆することを自己の目標とした党は、転覆される古い政府のかわりにどのような政府をつくるかを、一考しなければならない。臨時革命政府という新しい問題が生まれてくる。この問題に完全な解答をあたえるためには、自覚したプロレタリアートの党は、第一に、いま進行中の革命における、また一般にプロレタリアートの全闘争における臨時革命政府の意義、第二に、臨時革命政府にたいする党自身の態度、第三に、この政府に社会民主党が参加するばあいの正確な条件、第四に、下から、すなわち社会民主党がこの政府にくわわっていないばあいに、この政府に圧力をくわえる条件を、明らかにしなければならない。これらの問題がすべて明らかにされるばあいにはじめて、この点における党の政治的態度は、原則的な、明瞭な、確固たるものとなるであろう。

ロシア社会民主労働党第三回大会の決議が、この問題をどう解決しているかを見よう。以下がその全文である。

「臨時革命政府についての決議

(一)プロレタリアートの直接の利益も、社会主義の終極目標をめざすプロレタリアートの闘争の利益も、できるだけ完全な政治的自由を要求しており、したがって、専制的統治形態を民主的共和制にとりかえることを、要求している。

(二)ロシアにおける民主的共和制の実現は、勝利した人民蜂起の結果としてのみ可能である。この人民蜂起の機関が臨時革命政府であり、これだけが選挙煽動の完全な自由を保障することができ、また秘密投票による普通・平等・直接の選挙権にもとづいて、人民の意志を真に表明する憲法制定議会を召集することができる。

(三)ロシアにおけるこの民主主義的変革は、ロシアの現在の社会経済制度のもとでは、ブルジョアジーの支配をよわめずに、これをつよめるであろうし、ブルジョアジーは、ある時機には、すこしもためらうことなく、ロシアのプロレタリアートから革命期の獲得物のできるだけ多くの部分をうばいとろうと、かならず試みるであろう。

以上の点を考慮して、ロシア社会民主労働党第三回大会は、つぎのように決定する。

(イ)おそらく革命がたどるとおもわれる経過についての、また、プロレタリアートがわれわれの綱領(最小限綱領)*の当面の政治および経済的諸要求のすべてを実現するように要求しなければならない臨時革命政府が革命のある瞬間に必然的に出現することについての、具体的

な観念を、労働者階級のあいだにひろめることが必要である。

（ロ）力関係により、またその他あらかじめ正確に規定できない要因のいかんによっては、すべての反革命的企図と容赦なく闘争し、労働者階級の独自の利益をまもるために、わが党の全権代表が臨時革命政府に参加することは、ゆるされる。

（ハ）このような参加の必要条件としては、党がその全権代表を厳重に統制すること、完全な社会主義的変革をめざし、そのかぎりですべてのブルジョア政党に非妥協的に敵対する社会民主党の独立性をたゆみなくまもることがあげられる。

（ニ）臨時革命政府に社会民主党が参加することが可能であるなしにかかわらず、革命の獲得物をまもり、うちかため、拡大するために、社会民主党に指導される武装したプロレタリアートが臨時革命政府にたえず圧力をくわえる必要があるという思想を、プロレタリアートのもっとも広範な諸層のあいだに宣伝すべきである。」

二　臨時革命政府についてのロシア社会民主労働党第三回大会の決議はなにをわれわれにしめしているか？

ロシア社会民主労働党第三回大会の決議は、その表題からわかるように、全体としてもっぱら臨時革命政府の問題にあてられている。このことは、社会民主党の臨時革命政府参加の問題が、問題の一部として、それにふくまれていることを意味する。他方では、そこで論じられているのは、臨時革命政府のことだけであって、ほかのことではない。したがって、たとえば「権力奪取」一般などのような問題は、そこにはまったくふくまれていない。大会がこの「権力奪取」の問題やこれに類する諸問題をとりのぞいたのは、正しい行き方であったろうか？疑いもなく正しかった。なぜなら、ロシアの政治情勢は、このような問題をけっして日程にのぼせてはいないからである。その反対に、全人民が日程にのぼせているのは、専制の転覆と憲法制定議会の召集である。党の諸大会が提起し解決しなければならないのは、あれやこれやの文筆家が、時機相応にまたは不相応に触れた諸問題ではな

く、当面の時機の諸条件からして、また社会発展の客観的行程の結果として、重大な政治的意義をもっている問題である。

現在の革命で、またプロレタリアートの一般的闘争で、臨時革命政府はどういう意義をもっているか？　大会決議は、プロレタリアートの利益の見地からしても、また「社会主義の終極目標」の見地からしても、「できるだけ完全な政治的自由」が必要だということをまずはじめに指摘して、それを説明している。ところで、完全な政治的自由のためには、すでにわが党の綱領がみとめているように、ツァーリ専制を民主的共和制にとりかえることが必要である。大会決議のなかで民主的共和制のスローガンを強調することは、論理的にも原則的にも必要である。なぜなら、民主主義のための先進闘士としてのプロレタリアートは、まさに完全な自由をかちとろうとつとめているのだからである。そのうえ、現在ではいわゆる立憲「民主」党、あるいは「オスヴォボジデーニエ」党といった君主主義者が、いまちょうど「民主主義」の旗にかくれてわが国で活動しているだけに、このスローガンを強調することは、ますます適切なことである。共和制を樹立するためには、人民代表議会、しかもかならず全人民的（秘密投票による普通・平等・直接選挙権にもとづく）で、憲法を制定する議会が絶対に必要である。党大会の決議は、さらにこの点をもみとめている。だが、決議はそれだけにとどまってはいない。「人民の意志を真に表明する」新しい制度を樹立するためには、代表議会を憲法制定議会と名づけるだけでは不十分である。この議会が「憲法を制定する」権力と実力とをもつことが必要である。大会決議は、この点をみとめて、「憲法制定議会」という形式的なスローガンにとどまらずに、さらに、この議会が自分の任務をほんとうにはたすことができるための、なくてならない物質的諸条件をもつけくわえて述べている。このように、名目上の憲法制定議会が実際の憲法制定議会となりうるための諸条件をしめすことは、ぜひとも必要なことである。というのは、立憲君主党に代表される自由主義的ブルジョアジーは、すでにわれわれが一度ならず指摘したように、全人民的憲法制定議会のスローガンを意識的にゆがめ、これを空文句にしているからである。

大会決議は、選挙煽動の完全な自由を保障することができ、また人民の意志を真に表明する議会を召集することができるのは臨時革命政府だけであり、しかも勝利した人民蜂起の機関であるような臨時革命政府だけである、と述べている。この命題は正しいか？　これを論駁しよ

うと思うものは、ツァーリ政府が反動に手をさしのべずにおれるとか、この政府が選挙のさいに中立的でありうるとか、この政府は人民の意志が真に表明されるように配慮することができるとか、主張しなければならない。このような主張はまったくばかげたものであるから、だれもそれを公然と弁護しようとするものはあるまい。しかし、自由主義の旗にかくれてこっそりとこれを密輸入しているのこそ、わがオスヴォボジデーニエ派である。憲法制定議会は、だれかがこれを召集しなければならない。選挙の自由と公正を、だれかが保障しなければならない。だれかが、この議会に完全な実力と権力を託さなければならない。そして、こういうことをほんとうに心からやる気があり、それを実現するためにあらゆることをすることができるのは、蜂起の機関である革命政府だけである。ツァーリ政府は、かならずこれに反対行動をとるであろう。ツァーリと取引をむすんだ自由主義的政府、全幅的に人民蜂起に依拠していない自由主義的政府は、心からそれをやる気にはなりえないし、またどんなに心からそうしようと思ったところで、それを実現することはできない。したがって、大会決議は、唯一の正しい、完全に一貫した民主主義的スローガンをかかげているわけである。

しかし、臨時革命政府の意義の評価は、もし民主主義的変革の階級的性格を見おとすなら、不完全な、誤ったものとなるであろう。だから、決議は、変革はブルジョアジーの支配をつよめるであろう、とつけくわえている。このことは、こんにちの社会経済制度、すなわち資本主義的な社会経済制度のもとでは避けられないことである。だが、いくらかでも政治的に自由になったプロレタリアートにたいしてブルジョアジーの支配が強化される結果として、不可避的にこの両者のあいだには権力をめぐる死にものぐるいの闘争がおこらざるをえないし、ブルジョアジーは、「プロレタリアートから革命期の獲得物をうばいとろう」と死にものぐるいで企てざるをえない。だから、すべてのものにさきだって、またすべてのものの先頭に立って民主主義のためにたたかうプロレタリアートは、ブルジョア民主主義の胎内にひそんでいる新しい矛盾と、新しい闘争のことを、一瞬間たりともわすれてはならないのである。

こうして、決議の以上に検討した部分では、臨時革命政府の意義は、――自由と共和制のための闘争にたいする臨時革命政府の関係という点でも、憲法制定議会にたいするその関係という点でも、新しい階級闘争の地盤をきよめる民主主義的変革にたいするその関係という点で

も、――十分に評価されているのである。

つぎに、臨時革命政府にたいするプロレタリアートの立場は、一般的に言って、どういうものでなければならないか、ということが問題になる。大会決議は、なによりもまず、臨時革命政府が必要であるという確信を労働者階級のあいだにひろめよ、と党に直接勧告することによって、この問題にこたえている。労働者階級は、この必要をさとらなければならない。「民主主義的」ブルジョアジーがツァーリ政府を打倒する問題を陰におしやっておくのに反して、われわれは、この問題を第一位におしだし、臨時革命政府の必要をつよく主張しなければならない。それだけでなく、われわれは、現在の歴史的時機の客観的諸条件とプロレタリア民主主義派の諸任務とに合致した、この政府の行動綱領をしめさなければならない。この綱領は、わが党の最小限綱領そのままである。すなわち、一方では現在の社会＝経済関係の基盤のうえで十分に実現できるし、他方では、さらに一歩前進するため、社会主義を実現するために必要であるような、当面の政治的・経済的改革の綱領である。

こういうわけで、決議は、臨時革命政府の性格と目的とを十分明らかにしている。この政府は、その起原と基本的性格からいえば、人民蜂起の機関でなければならない。その形式的な使命からいえば、全人民的憲法制定議会を召集する道具でなければならない。その活動の内容からいえば、専制に反対して蜂起した人民の利益を確保できる唯一の綱領である、プロレタリア民主主義派の最小限綱領を実現するものでなければならない。

臨時政府は臨時的なものであるから、まだ全人民の是認をえていない積極的綱領を実行することはできない、といって反論するものがあるかもしれない。こういう反論は、反動派や「専制派」の詭弁にすぎないであろう。どんな積極的綱領も実行しないということは、こんにちでは腐敗しきった専制の農奴制的秩序の存続にあまんじることである。そうした秩序にあまんじることのできるのは、革命の事業にたいする裏切者の政府だけであって、人民蜂起の機関である政府ではないであろう。憲法制定議会は集会の自由をみとめないかもしれないという口実をつかって、憲法制定議会がこの自由をみとめるまでは集会の自由を実際に実現することを断念せよ、と提議するものがあるなら、それは物笑いのたねであろう。臨時革命政府が最小限綱領を即時実現しないといって抗議するのもおなじく物笑いのたねであろう。

最後に、決議は、最小限綱領の実現を臨時革命政府の任務とすることによって、最大限綱領の即時実現とか、

社会主義的変革のための権力獲得とかいう、ばかげた半ば無政府主義的な思想を排除していることを、注意しておこう。ロシアの経済的発展の程度（客観的条件）とプロレタリアートの広範な大衆の自覚と組織の程度（客観的条件と切りはなしえないようにむすびついた主観的条件）とからして、労働者階級を即時完全に解放することは不可能である。いま進行している民主主義的変革がブルジョア的性格のものであることを無視していられるのは、まったく無学な人々だけである。社会主義の目標と、それを実現する方法について、労働者大衆がいまのところすこししか知らないことをわすれていられるのは、もっとも素朴な楽天家だけである。だが、われわれはみな確信している。――労働者の解放は労働者自身によってしか行われえない、大衆の自覚と組織がなくては、また全ブルジョアジーとの公然たる階級闘争によって大衆を訓練し教育しないでは、社会主義革命は問題になりえない、と。だから、われわれがまるで社会主義的変革を延期しているように言う無政府主義的反対論にこたえて、われわれはこう言おう。われわれは社会主義的変革を延期しているのではなく、唯一の可能な方法によって、唯一の正しい道をとおって、すなわち民主的共和制という道をとおって、社会主義的変革への第一歩を踏みだすのである、と。政治的民主主義の道をとおらずに別の道をとおって社会主義にすすもうとするものは、かならず、経済的な意味でも、政治的な意味でも、愚劣で反動的な結論に達するのである。もし、こういう時機に労働者のなかのだれかがわれわれにむかって、なぜわれわれは最大限綱領を実現してはならないのか、とたずねるなら、われわれは、民主主義的気分をもっている人民大衆がまだどんなに社会主義とは無縁であるか、階級矛盾がまだどんなに発展していないか、プロレタリアがまだどんなに未組織であるか、を指摘することによって、彼らにたいする答としよう。まあ、ロシア全土の数十万の労働者を組織してみたまえ。数百万人のあいだに諸君の綱領にたいする共鳴をひろめてみたまえ！　威勢はいいが、からっぽな、無政府主義的空文句にとどめずに、そうやってみたまえ。そうすれば諸君は、この組織化を実現するのも、この社会主義的啓蒙をひろめるのも、民主主義的改革をできるだけ完全に実現することにかかっていることに、たちまち気がつくだろう。

さきへすすもう。臨時革命政府の意義と、それにたいするプロレタリアートの態度とがいったん明らかになったなら、こんどはつぎの問題がおこってくる。この政府にわれわれが参加すること（上からの行動）はゆるされ

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com